

## 研修報告



Trainee Report

## 欧州事務所（独フランクフルト）研修報告

梅森直樹\*

My Experience as a Trainee at the Europe Office in Frankfurt, Germany

Naoki UMEMORI

## 1. 研修の経緯

海外トレーニー制度を利用し、ドイツのフランクフルトにある当社の欧州事務所（Fig. 1）で2016年9月から1年間、海外研修を体験した。当社の海外トレーニー制度は、派遣部門・事業部への帰任を前提に、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目的とし、従業員を海外関連企業、現地事務所、海外企業へ派遣し、業務体験型研修を行うものである。また、海外トレーニーは、業務を通じて、その国や地域での仕事の仕方、およびローカルスタッフの考え方の特性やビジネス習慣、コミュニケーション力、言語力、現地の文化を学ぶことも目的としている。

私が御世話になった欧州事務所は、テクニカルサービスセンターであり、欧州事務所自体の人数は数名であったが、当社グループ企業の DAIDO KOGYO EUROPE GmbH と Daido Electronics (Europe Office) Co., Ltd. が同フロアに構えており、お互いに連携・協力しながら業務を遂行しているため、全体では十数名の方々と接する機会をいただいた。

## 2. 研修

## 2. 1 滞在先について

フランクフルトは、ドイツの中心からやや南西よりに



Fig. 1. Europe Office in Frankfurt.

位置するヘッセン州の大都市であり、正式名称のフランクフルト アム マイン（マイン河畔のフランクフルトの意味）が示すように、ライン河支流のマイン河が市内を流れている。フランクフルトの人口は約69万人であり、欧州共通通貨「ユーロ」の総本山である欧州中央銀行をはじめ、ドイツ連邦銀行やその他大手銀行の本店、証券取引所、外資系金融機関が軒を連ねる金融都市である。世界最古の見本市都市としても有名であり、商業・金融を象徴する超高層ビルがひしめき合っている（Fig. 2）。高層ビルが少ないドイツでは異彩を放つ存在である。また、ヨーロッパ屈指のハブ空港もあり、さまざまな国籍の人々が生活する賑やかな街である。高層ビルがある一方で、市街地にも緑が多く、壮大な公園や植物園があり、散歩をするのにも心地よい環境である。また、旧市街地の観光名所であるレーマー広場、大聖堂、旧オペラ座（Fig. 3）など歴史的建築物もあり、古さと新しさが混在する街である。

2018年3月28日 受付

\* 大同特殊鋼株式会社技術開発研究所 (Corporate Research &amp; Development Center, Daido Steel Co., Ltd.)



Fig. 2. Frankfurt City

## 2. 2 海外業務を通じて学んだこと

前述のように、当社の海外トレーニー制度は、派遣部門・事業部への帰任を前提としており、私の派遣部門は技術開発研究所 金型材料技術研究室であるため、欧州での工具鋼ビジネスを中心に技術サービス業務を体験した。当社欧州事務所は欧州全てに対応するため、ドイツだけでなく、出張で欧州各国の考え方や性格の違いも体感できた。

工具鋼ビジネスでは、日本・アジアと使用している鋼種が異なることや、当社の材料の印象を生々の声で聞くことができる貴重な経験となった。また、経験した割合は少ないが、工具鋼だけでなく、高合金や設備関連についても体験することができ、知識の幅を広げる良い機会となった。

その際に、欧州で日本人と大きく異なると感じた点は、実績を求められることや、説明した後に必ず理由として、なぜかを問われることである。日本人が好む起承転結ではなく、結論と理由を端的に分かりやすく説明することの重要性を学んだ。

## 2. 3 語学その他学んだこと

語学について欧州で感じた点は、英語圏でなくても英語できちんと会話ができる人が多いことである。英語圏ではないので、多少なりとも現地語のなまりはあるものの、会話ができていることに、きれいな言葉を選んで悩むより、言葉にして伝えようとするのが重要だと感じられた。

私の場合は、研修前の国内の語学学校で教師から海外に住むことを心配されるほど、英語力が低い状態で現地に出向いたため、会話には非常に苦労した。現地の語学学校を活用し対処したが、研修が決まる前からの日頃の学習を反省した。また、英語を学ぶだけで精いっぱいであったため、ドイツ語を話すことができるようにはならず、ドイツ語の単語だけを学ぶことになってしまったことも反省点である。



Fig. 3. Römerberg and Old Opera House.

## 2. 4 生活について

ドイツの印象といえば、ビール、ソーセージ、サッカーなどが挙げられる。ドイツでは各地にさまざまな種類のビールがあり、日本のように全国共通ブランドのビールを飲むというより、地元の醸造所で作られるビールを飲むのが特徴的である。日中からビールを飲んでいる姿をよく見かけることも印象的であった。

また、日本人選手も所属しているブンデスリーガでは、ビールで勢いをつけた上での、地元チームへの応援の熱狂が凄く、日本では味わえない経験ができた。

一方で、ドイツ人のイメージとして勤勉ということが挙げられる。博物館や水族館で展示物の説明文を一つ一つ丁寧にじっくり読んでいた姿を見た時は、勤勉のイメージのままと感じられた。

## 3. 研修を終えて

非常に有意義な研修をさせていただき、業務や生活環境について御教示・御指導いただいた、社内およびグループ会社の関係者の皆様に心から御礼申し上げます。この研修により、実際に喜ばれる・印象に残る製品のデータ、説明の仕方や資料の作り方などを学ぶことができたので、今後の研究開発時に活かしていきたい。また、英語に課題はまだ残っているが、英語を学ぶ意欲は研修前より湧いており、研修の効果だと感じた。



梅森直樹